

秦中・秦高在職中の想い出

新米教師の頃

平澤 博 (英)

(昭和44年〜50年)

民間会社勤務後、通信教育で英語の教員免許を取り、初めて赴任したのが秦高でした。当時の秦高は男子校で旧制中学的雰囲気色が濃く残り、個性に富んだ先生方が数多くいらつしました。

私は既に30歳になる年でしたが、第二の青春とばかりによく遊びよく学び(?)しました。1万メートル競走で一部生徒と走ったり、生徒と職員対抗のサッカーで転倒し手首の骨にひびが入ったり眼鏡を割ったり、またテニスに、スキーに、山岳部の引率にと忙しく体を動かしていました。英語はまだ学半ばの感があり、

隣の席の石井郷二先生に英文法の疑問点などで質問攻めにしていました。新宿の紀伊国屋書店に出かけてはせつせと原書を買ひ込んだものです。勉強中の未熟な英語教師で生徒たちには迷惑をかけました。

2年目からクラス担任になり純朴な生徒たちと良くまとまった学年団の先生方に恵まれ充実した3年間でした。北九州への修学旅行は管理的に窮屈なこともなく、のびのびと楽しいものでした。その翌年は野球部が県大会準優勝の快挙を遂げ盛り上がりました。部活は主に山岳部にお世話になりました。夏合宿では北アルプスの縦走など5回はお付き合いました。最も印象に残るものは後立山エリア縦走(連華温泉―朝日岳―雪倉

岳―白馬岳―遠見尾根)です。角田先生が一緒でした。唐松岳前の不帰の嶮は難所でした。1年生が10人位参加していました。各30キロからのザック等を背負つての鎖場、梯子等の連続。よくぞ転落せずに通過できたものです。今、思い出してもぞっとします。

広畑が丘で新米教師を支えてくれた当時の素直な生徒諸君と、おらかな先輩諸先生と、元氣澆刺の若い先生方と、自由な秦高の校風にあらためて感謝する次第です。乾杯!

はるかな想い出

伊藤 博 (理科)

(昭和61年〜平成7年)

秦野高校に着任して新鮮に感じたことは、男子クラスがあったことです。2、3年生の化学を担当しましたが、授業も実験も活気があり、充実感があったことを覚えていま

す。当時の3年生は大人の風格があり、宿題を忘れた者に対して、手の甲をピシピシ叩いて行くと、やっである生徒も手を差し出して来るので、愉快でした。

部活動では、化学部員と夜遅くまで、線香花火や針穴写真機作りをして、失敗ばかりしていたことが懐かしいです。

柔道部の顧問もりましたが、合宿で女生徒に次々と投げられてフラフラとなり、貧血を起こしたのも良い思い出です。

職員間の交流も濃く、放課後や休日に、囲碁、テニス、スキー等をしてよく遊び、そのお陰で、現在の自分があると感じています。

秦高での残念な思い出の一つは、スキー教室を中止したことです。体育科の先生の努力で続いて来た行事ですが、職員会議で中止と決定した時は、寂しい気持ちになりました。

た。今、スキーをする若者が減っていることを考えても残念です。もう一つは、グラウンドのプラタナスの幹の中に、野生のミツバチが巣をつくり、皆で喜んで見守っていたのですが、ある日、薬を散布されて全滅しており、ガツカリしたことです。

ミツバチはおとなしい蜂なだけに、かわいそうなことをするものだと、口惜しく感じました。

近況ですが、定年退職をした後、歯科衛生士の専門学校で、化学の授業を週1回担当しています。

それ以外はゴルフを始めました。秦高出身の西ヶ谷孝夫プロの教室に入り、教えてもらっています。レッスンではいつも、ドジ、ヘボ、根性無しと云われながらやっていますが、怒られる毎に秦高の縁を感じて、幸せな気持ちになります。